

第 1474 回例会報告

平成28年9月8日(木)晴れ

会長挨拶

会長 河西達雄

今風の組織

今日お話をいただく、原雅廣さんは、「NPO法人匠の町しもすわあきないプロヘクト」の専務理事をしておられ、こちらの顔の方が有名です。

原さんは拠点となる御田町商店街とは地縁を持たないサラリーマンです。「小さなころの御田町商店街の賑やかな思い出」を原点に商店街活性化に取り組み始めたとお聞きしています。今では月平均2回以上、北は富良野から南は鹿児島まで御田町商店街を見学にお見えになる方の対応をしながら、県から依頼され県職員を対象とした自主グループを「原塾」を主宰しています。

何よりユニークなのは原さんが主催または関係する多くの組織の在り方です。

会社やロータリーもそうですが、組織は長を頂上にピラミッド型の形をしています。こうした組織の方が効率よく目的を達成することができます。

しかし「まちづくり」のようなボランティアの組織では、ピラミッド型の組織ですと一部のメンバーに齟齬を強いたり、疲労感や「ボランティアなのにどうして自分ばかり」といった思いを起こさせます。その点原さんたちの主張する組織は「できる人ができる範囲で」が基本となっています。

例えば「三角八町(さんかくばっちょ)」というイベントが下諏訪にあります。秋宮→春宮→大門大鳥居(灯籠)→秋宮を結ぶ三角形の中で色々の行

事をして街をにぎやかにという祭りですが、この組織には事務局もなければ長もいません。全体をきちんと把握している人もいません。ただ「今年私たちはこんなことをする」という自主申告で成り立っています。去年あんなことをして評判だった人達が「今年は都合悪いから参加しない」とか「今年は誰々さんの催しを手伝う」とか勝手に言います。それでも賑やかにすでに20回以上続いています。さすがに今は下諏訪町観光協会が連絡役をしていますが、あくまで連絡役あり、町の大きな予算を使うことも、何か指示されることもありません。

私がこうした行事の執行部を任されても、こんないい加減なイベント参加者募集方法や事業計画では心配でとても実行できません。

にもかかわらず、トップを持たず明確な組織を持たない「できる人が、できることを、できる範囲でやる」アメーバのような組織がイベントを成功させていて、次々と若い人を引き込むことは何より不思議で、一考に値すると思わざるを得ません。

裏には隠されたSNSの利用とかもあるようですが、SNSに無縁の方も多く参加し来場します。「ボランティアにおける今風の組織」をもう少し研究してみたいものです

◇幹事報告◇

【報告事項】

- 1.ガバナーエレクトが決まりました。長野RCの関邦則さまです。文書を回覧します。
- 2.地区大会で事例発表するよう地区財団事業の報告依頼が来ました。御子柴直前会長にお渡しします。

■出席報告

会員数	38名
出席対象	36名
出席者数	30名
出席率	83.3%
前回修正	88.9%

■ニコニコBOX

7名	14,000円
累計	69,000円
目標額	60万円
達成率	11.5%

■今週のことは

私が海外出張中に孫が生まれました。初孫です。皆さんお仲間入りできたこと喜んで良いのやら。爺さんになりました。
西澤賢二

一層仕事に精進いたします。
望月勉

原雅廣さん本日はよろしくお願ひします。
河西達雄



【連絡事項】

- 1.ロータリー財団100周年記念シンポジウム開催のお知らせがきました。回覧します。
- 2.当クラブの新年例会に必ず出席いただいている、日赤の大和院長から「市民公開がん講演会」の案内が届きましたのでレターケースに入れてあります。ぜひ参加しましょう。
- 3.大澤ガバナー補佐と小口諏訪グループ事務局員はガバナー補佐訪問で富士見ロータリークラブへ行っております。公務ですのでホーム出席扱いです。

【受領文書】

- 1.ロータリーの友が届きました。レターケースに入れてあります。
- 2.月信が届きました。レターケースに入れてあります。

◇委員会報告◇

【社会奉仕委員会】

8月11日、例会は休みですが、「諏訪湖クリーン祭り」に参加します。7時20分水辺公園集合です。

【IM実行委員会】

8月25日の例会にてIMテーマ、会員セミナーについての話し合い例会が行われます。各自ご準備をお願いいたします。

Happy birthday 



今月の誕生日は萩田均会員と望月勉会員でした

第 1474 回例会

南三陸町の今!!!

講師 原雅廣氏
担当 社会奉仕委員会

NPO法人 匠の街しもすわ・あきないプロジェ



クト専務理事原雅廣さんをお招きして、東北大震災後の南三陸町のお話を聞きました。

あの東北大震災直後、下諏訪町に若い人達を中心になって、諏訪シンクタンク・アラ

イアンスという大震災被災者支援を目的にする団体ができました。原さんはその中心的役割を担って、以後5年余、南三陸町支援に尽力されています。シンクタンクアライアンス設立から、神戸地震を経験した藤村望洋氏が提案するぼうさいネットワークへの参加、ネットワークを通しての南三陸町支援をしてきました。

震災直後は被災者から聞き取った必要物資をネットワーク商店街からの供給にはじまり、しばらくしてからは、南三陸の店を流されたお蕎麦屋さんの立ち上げを、福井の商店街が「越前手打ちおろしそば」で支援したり、長野県下諏訪の商店街が、南三陸の有名だったマドレーヌの復活を支援したり、店も家も工場も流された笹蒲鉾屋さんを、鹿児島のおまつ揚げ、四国新居浜のじゃこてん、島根県浜田の赤てん、福井県小浜の板蒲鉾等々が支援し、また、南三陸の水産加工のお店と全国の干物屋さんが連携したり、北海道留萌が南三陸の中華料理店に豚ジンギスカンを提供するなど、全国連携による個店と商店街の支援等でした。



こうして、元気の出た南三陸の志津川商店街は、仮設商店街立ち上げへと進みました。南三陸町で開催される月一度の復興市には、当初、諏訪地方の物産を持って毎回参加し、その売り上げのすべてを寄付してくるという積極的な関わりをしてきました。その活動内容をお話いただきました。

原さんは、く五年後の今、ハードは国や行政がある程度援助していますが、被災者が生まれた商

店街にどうやって人が集まり、商業地としての価値を生み出して行くか・・・地方創生は、諏訪地方の課題でもあると言います。また、く大震災支援で、私たちにできることは、被災地の人々と人間関係を濃密なものにし、親類づきあいのように、お互いに励ましあい、まちづくりをしていくことが大事で、それには、東北に旅行に出かけ、東北の人々と知り合ったり、東北の物産を買ったりすることも必要だ」と言います。

震災直後、私たちは流される街の姿、被災した人々の様子に衝撃を受け、息をのみ、同情するとともに支援を誓いました。多くの人々が同胞であることを意識したと思うのです。改めて、今、その時の想いを蘇らせ、応援を続けましょ

南三陸町、頑張っています。 南三陸の特産品を買って支援しよう!!

未曾有の東北大震災から早5年が経過し、あの時なんとか支援しなければと深く想った人々の記憶も薄らぎつつあります。東北の復興には長い年月を要します。改めて関心を喚起するために8月28日の例会席上「さんさん商店街の特設売店」を設置し、みなさんに買い物をしていただきました。総売上額は¥138,640になりました。皆さんのご協力をご感謝申し上げます。

「これしきでどうなるものでもあるまい」と思われるかもしれませんが、「私たちは忘れていません!!がんばってください!!!」というメッセージは届けられたと思っています。

尚、収支は、

収入	売上額	¥138,640.
支出	商品仕入れ額	¥128,920.
	試食分費用	¥8,000.
	雑費(印刷代)	¥640.
	振込料	¥1,080.
	合計	¥138,640.

でした。



諏訪湖クリーン祭参加

8月11日に下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協

大会宣言

諏訪湖の汚れをなくし、昔のように美しい泳げる諏訪湖をとりもどすことは私たちの願いです。この願いのもと町内40数団体が協力して昭和55年8月9日に「下諏訪町諏訪湖浄化推進連結協議会」を設立しました。

設立以来、「諏訪湖にトンボを」、「よみがえれ諏訪湖」合言葉に毎月1回の湖岸清掃をはじめ諸々の啓発活動、学習活動を展開しています。

私たちの活動は着実に地域に根付き、現在では71団体・10個人に加盟いただき、日々の活動に積極的に取り組んでいます。

しかし、諏訪湖をとりまく環境には依然問題があります。湖浄蓮では、アレチウリ駆除活動を平成12度から、またブラックバス・ブルーギル稚魚駆除活動を平成15度から開始しました。これらの活動は諏訪湖在来の生物を守る為、継続していく必要があると考えます。

これからも私たちは住民ひとりひとりの浄化に対する意識を高めていくために

※河川や湖などへゴミ捨てない。※合成洗剤を使わない。※食用廃油の完全回収。

という運動を諏訪湖浄化に向けた第一歩とします。私たちひとりひとりの「水」に対するやさしい思いやりが、美しい環境を次の世代へ受け継ぎ礎となります。

私たちは、この運動が諏訪湖を取り巻く全市町村の住民運動に発展するようそれぞれの組織を通じて協力に呼びかけ、諏訪湖浄化運動をさらに推進していくことを第35回諏訪湖クリーン祭にあたり宣言します。

平成28年8月11日

下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡実行委員会
第35回クリーン祭

議会(湖浄連)主催による第35回諏訪湖クリーン祭が水辺公園周辺で開催され、以下の大会宣言が採択されました。

振り返ってみると、35年前には湖岸のゴミも多く、湖岸清掃を主に活動し、湖浄連参加団体に属さない多くの町民も集まって開催されましたが近年は参加者も随分少なくなっています。

また、住民のゴミを出さない、持ち帰る意識も高まり、回収したゴミの分別では、たばこの吸い殻、紙切れ、菓子等の包装袋が目立つと報告がありました。



散会前に、このイベントについて「“継続することが大事”という意見や“イベントの意義の再確認が必要”という意見もあり、どちらも大事なことと思います。みなさんでお考えいただきたい」という会長挨拶がありました。大会宣言の中にその考えるヒントがありそうです。

諏訪湖RCクラブ関係では、海老原さんのドミノ環境ブースがあり、ご夫妻、かわいいお嫁さん、お孫さんが頑張っていました。また森山さんはカヌー教室のお手伝いで湖上参加となりました。

